作成日	1993/9/1
改訂日	2012/4/1

製品安全データシート

1. 製品名及び会社情報

製 品 名 シールピール ＃２００１ コールドタイプ エアゾール
製 造 者 名 太陽物産株式会社
住 所 東京都中央区日本橋 2-9-4
担 当 部 署 本社 営業部
電 話 番 号 03-3272-1771 (緊急時連絡先)
ＦＡＸ番 号 03-3272-4650
整 理 番 号 No.SP_12/04

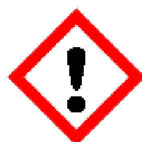
2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理科学的危険性	引火性液体	区分 2
健康有害性	急性毒性 (経口)	区分5
	急性毒性 (経皮)	区分外
	急性毒性 (蒸気)	区分 4
	皮膚刺激性･腐食性	区分2
	眼に対する重篤な損傷･刺激性	区分2Ａ
	生殖細胞変異	区分外
	発ガン性	区分外
	生殖毒性	区分1Ａ
	特定標的臓器･全身毒性 (単回暴露)	区分2
	特定標的臓器･全身毒性 (反復暴露)	区分1
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境有害性	水性環境有害性 (急性)	区分3
	水性環境有害性 (慢性)	区分外

ＧＨＳラベル要素

絵表示

注意喚起語 **危険**

危険有害性情報

引火性の高い液体
飲み込むと有害の恐れ (経口)
皮膚刺激
ｱﾚﾙｷﾞｰ性皮膚反応を引き起こすおそれ
重篤な眼への刺激性
吸引すると有毒 (気体､蒸気､ 粉塵､ﾐｽﾄ)
生殖能または胎児への悪影響の恐れ

臓器の障害
長期または反復暴露による臓器の障害
水生生物に有害

注意書き

〔安全対策〕

保護手袋・保護眼鏡・保護面を着用すること。
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
取扱い後は良く手を洗うこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
必要に応じて個人用保護具を使用すること。
環境への放出を避けること。

〔応急処置〕

吸引した場合、新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい場所で休息させること。
皮膚に付いた場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。
気分が悪いときは、医師に連絡すること。
暴露またはその懸念がある場合は、医師の診断・手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断・手当てを受けること。

〔保管〕

容器を密閉して換気の良い所で保管すること。
施錠して保管すること。

〔廃棄〕

内容物や容器を、国際・国・都道府県・市町村の規則に従って廃棄すること。

3． 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物
化学名： 塩化ビニル-酢酸ビニル共重合体溶液
成分及び含有量

成分	塩化ビニルー酢酸ビニル共重合体	トルエン	MEK	MIBK
含有量 %	15～30	15～30	15～30	15～30
化学式	$(C_2H_3Cl)_m(C_4H_6O_2)_n$	$C_6H_5CH_3$	$CH_3COC_2H_5$	$(CH_3)_2CHCH_2COCH_3$
官報公示整理番号	化審法 6－76	3－2	2－542	2－542
CAS No.	9003－22－9	108－88－3	78－93－3	108－10－1

4． 火災時の処置

消化方法

初期の火災には粉末・炭酸ガス・乾燥砂などを用いる。大規模の火災には泡消化剤などを用いて空気を遮断する事が有効である。又、炎症の恐れが無いよう放水で周辺のタンク・建物などの冷却をする。消火作業は風上から行い、場合によっては呼吸保護具を着用する。

消化剤

粉末 ・ 炭酸ガス ・ 泡 ・ 乾燥砂

5. 漏出時の措置

- 少量の場合には、ウエスなどで拭き取り密栓できる容器に回収する。
- 多量の場合には土砂などで流れを止めると共に、乾燥砂・土などに吸着させて密栓できる容器に回収する。
- 溶解場所の付近の着火源となる物を速やかに取り除く。作業の際には必ず保護具を着用する。着火した場合に備えて消火用機材を準備する。
- 風下で作業をしない。

6. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 吸い込んだり、眼、皮膚、及び衣服に直接触れないように、適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業し、暴露防止に十分注意する。
- 取り扱いは換気の良い場所で行う。
- 取り扱いの都度、容器を密栓する。
- 火気・衝撃火花・高温物などによる着火を生じさせないよう注意する。
- 使用する電気機器は防爆構造とし機器類は静電気対策の為アースを確実に行う。作業着・作業靴は導電性の物を使用する。
- 容器の転倒・落下や衝撃を加えるなどの乱暴な取り扱いをしてはならない。

保管

- 容器は直射日光を避け、冷暗所に密封して保管する。
- 火気・熱源より遠ざけ、可燃物を近くに置かない。
- 長期の保存はさける。
- 消防法条例に従い適切な場所・方法・保管数量を厳守する。

環境管理

- 第二種有機溶剤等の設備を設ける。

作業管理

- 換気に留意する。

その他

- 消防法有規則などの法令に定めるところに従う。

7. 暴露防止措置

成　分	トルエン	ＭＥＫ	ＭＩＢＫ
許容濃度（ｐｐｍ）	５０	２００	５０
管理濃度（ｐｐｍ）	５０	２００	５０
ＡＣＧＩＨ（ＴＷＡ）	２０	２００	３０

設備対策

- 室内作業場で使用する場合、発生源の密閉又は局所換気装置を設置する事。
- 取扱所の近くにシャワー・手洗い・洗顔設備を設け、その場所を明澄に表示する。

保護具

状況に応じ、有機溶剤用防毒マスク・送気マスク・空気呼吸器・保護眼鏡・顔面覆い・
保護手袋（不浸透性）・静電防止長靴・前掛けなどを使用する。

8. 物理的及び科学的性質

外　観：無色透明又は着色液体（緑色）　　融　点：－８０℃(MIBK)
溶解度：水：不溶　有機溶剤：易溶　　揮発性：有り
臭　い：トルエン又はケトン類有機溶剤臭　　比　重：０．８９
沸　点：７９．８℃

9. 安定性及び反応性

	(内容液)	(噴射剤)
引火点：	-7.2℃	
発火点：	415℃	
可燃性：	有り	
発火性：	無し	
酸化性：	無し	
粉塵爆発性：	無し	
自己反応・爆発性：	無し	
安定性・反応性：	通常の状態では危険な重合反応は生じず、安定である。	
配合禁忌：	強酸化剤との配合、接触は危険なので行わない。	
その他：	ゴム・プラスチックの一部については溶解する物がある。	

10. 有害性情報

皮膚腐食性 ：無し
刺激性 ：蒸気は眼・鼻・呼吸器に対して中程度の刺激性有り。皮膚については弱い刺激性がある。繰り返し接触により脱脂症状を生じる。
液体は眼を激しく刺激し、粘膜に炎症を起こす事がある。
急性毒性 ：多量に吸飲した場合、麻酔作用・脱力感・頭痛・むかつき・眩覚・協調不能などの症状が出る。
亜急性毒性 ：継続暴露に於いては、疲労・倦怠・脱力感・頭痛・食欲不振・吐き気・不眠・協調運動失調・記憶障害などが生ずる事がある。
慢性毒性 ：知見無し
癌源性 ：個別の材料については、癌原生があるとの証拠は得られていない。
変異源性 ：知見無し
生殖毒性 ：知見無し
催奇性 ：知見無し
その他 ：燃焼時に塩化水素ガスが発生する。

11. 環境影響情報

分解性 ：データ無し
蓄積性 ：データ無し
魚毒性 ：データ無し

12. 廃棄上の注意

・ 溶液は密閉できる金属容器に入れ、廃油又は廃塗料として産業廃棄物処理業者に委託処理をする事。

・ 剥離後の乾燥皮膜はごく少量の場合を除き産業廃棄物処理業者に委託処理する。焼却処理を行う際、塩化水素ガスが発生するので、燃焼排ガスの処理対策を講ずる。
・ 産業廃棄物処理業者に委託する場合は、塩化水素ガスの発生する物である事、及び溶液の場合は引火性の物である事を知らしめる。

13.　輸送上の注意

・ 運搬に際しては容器に漏れのない事を確かめ、転倒・落下・損傷を生じる事がないように注意して積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
・ 混載禁止物質との混載は避けるなど、消防法、その他法令の危険物に関する定めに従い適切に輸送する。
・ 消防法による危険物　第四類　第一石油類であるので、第一類の危険物及び第六類の危険物との混載は禁止されている。

14.　適用法令

消防法　：危険物第四類第一石油類　（非水溶性液体）
労働安全衛生法　：危険物（引火性の物）
　有機則（第二種有機溶剤）
　表示物質
船舶安全法　：別表第5（中引火点引火性液体）
港則法　：引火性液体
海洋汚染防止法　：バラ積み運送有害液体物質（C級）
航空法　：第三引火性液体
PRTR法　：第一種指定化学物質のトルエンが23%含有する。

15.　その他の情報

参考文献：
・経済産業省
　GHS 支援ツール類　　GHS 混合物分類判定ｼシステム（GHS 改訂 2 版対応版）
　URL:http://www.safe.nite.go.jp/ghs/ghsrefs.html　（2012 年 3 月現在）

・各種材料ＭＳＤＳ

危険・有害性などの評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには注意してご使用下さい。